

〔13番 葛谷寛徳 登壇〕

○13番（葛谷寛徳）

最後の質問者となりますが、お許しをいただきましたので、大きく2点について質問をいたします。

まず最初に、神岡城の展示、装飾等のリニューアルについて伺います。先の12月議会で鉾山資料館のリニューアルを含めた江馬地区一帯の活性化について提案したところでありまして、高原郷土館のさらなる活用に大いに期待しているところです。鉾山資料館のリニューアルはその後鉾山の町として長い時を重ねる神岡町の歴史や文化を伝えるために、神岡商工会議所とNPO法人神岡まちづくりネットワークが、住民参加検討会議でまとめられた提言を市に提出されました。これを受けまして、令和4年度は当施設のリニューアル後のあるべき姿などにおいて、基本設計等の予算が計上されているところです。

今年度、先駆けて神岡城の改修を行うとなったことは、神岡町のまちづくりにとって大変ありがたいことであり、今後の江馬町一帯の活力に大変期待が持てるところでございます。神岡城の経緯について少し触れますと、当時、神岡鉾山においては三井がこの地において鉾山業に着手して100年、また三井鉾山株式会社より分離独立して20年目となる年に、旧神岡町が合併20周年記念ということで、昭和45年6月神岡工業から寄贈されたのが神岡城です。神岡鉾山の思いは、広く郷土の歴史をしのび、また、社会教育や観光面でも有効に運用されたいとのことであったと思います。神岡城の地は、ご承知のとおり、戦国末期の高原郷の豪族、江馬氏が居館を構えたときに始まっており、以来、飛騨国領主金森氏の領有、あるいは幕府直轄の天領など、常に高原郷の鎮護の要衝でもあったと言われております。

現在の神岡城の展示は、コンセプトが明確ではなく、神岡にゆかりのないものが展示されているなどこれまでに大いに利活用されているとは必ずしも言えないものであり、リニューアルに大変期待をしております。神岡城の展示装飾等のリニューアル事業、1,000万円の事業概要を見ますと、江馬氏館跡公園との連携を図るということですから、非常に的を得ているものだと考えております。

概要にもあるように、県内で初めて国の史跡、名勝の二重指定を受けた、江馬氏の館跡公園です。江馬氏の歴史やその背景となる、神岡の歴史を伝えるコンテンツの不足や、高原郷土館の活用と連携の必要性が提言されております。また、文化振興施設としてではなく、展望台としてもすばらしい立地にあり、観光施設としても生かせるようなリニューアルを期待しております。江馬氏館跡公園の価値と、傘松城跡の評価を伝える展示としたい次の点について伺います。

現状とリニューアルの内容4点について伺いますが、1つ目に入込客数はどのように推移しているのでしょうか。また、神岡城の文化財としての価値はどのように考えられておられるか。3番目に、改めてどのようなコンセプトでリニューアルをされようとしておりますか。それから4番目、展望台としても活用できるよう考えられているか伺います。もう1つは、リニューアル後の活用について伺います。国史跡である江馬氏館跡庭園との連携による活用について伺います。以上、この2点について伺います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔教育委員会事務局長 野村賢一 登壇〕

□教育委員会事務局長(野村賢一)

1つ目の神岡城の現状とリニューアルの内容について、4点のお尋ねをいただきました。

まず1点目の入込客数の推移についてお答えします。高原郷土館は、神岡城、鉾山資料館、旧松葉家の3館からなる施設です。施設は城ヶ丘公園内に位置するため、公園利用者も多数いらっしゃいますが、ここでは有料エリアの入館者記録を報告させていただきます。

コロナ禍前の平成29年度は、4,038人、平成30年度、3,338人、令和元年度3,904人の年間入館者数でした。コロナ禍以降も、令和2年度4,039人、令和3年度3,014人とあまり影響を受けず、3,000人～4,000人程度で推移しております。

次に、2点目の神岡城の文化財としての価値についてのお尋ねです。神岡城の建物自体は、昭和40年代に想像で建設されたいわゆる模擬天守と呼ばれるもので、調査結果や文献資料に基づいて復元された城ではないため、文化財としての価値は高くありません。しかし、高原郷土館の敷地全体は市指定史跡、東町城跡であります。東町城は、戦国時代に江馬氏が築き、後に高山藩主となった金森氏が高原郷の押さえとして改修利用したと伝えられ、飛騨市の歴史を語る上で重要な史跡です。

また、神岡城の建っている場所は古い絵図や写真から実際にやぐら台として使われていた場所であったと想定できます。そのため、現在の神岡城からの眺望は、当時の武将が見た景観を現在も追体験できる場所であると言えます。

3点目のリニューアルのコンセプトについてお答えします。神岡城の現状の展示は、寄贈された鎧カブト等の展示物が並び、議員ご指摘のとおり神岡に直接ゆかりがないもの、また、江馬氏に関係がないものも多くあります。そのため、リニューアルにあたっては、現在の展示内容を全面的に刷新し、高原郷の中世以前の歴史を概観しつつ、江馬氏や江馬氏の城跡について学べる場所にしたいと考えており、約半世紀にわたって継続して実施してきた江馬氏下館跡の調査成果や国史跡への追加指定を図るべく、近年、集中的に行っている傘松城跡などの山城の調査成果を余すことなく紹介したいと考えております。

具体的には、1階は江馬氏の歴史や点在する城跡の解説。発掘調査などで判明した、江馬氏城館跡の学術的価値を伝えるエリアとし、神岡城が建つ城跡の解説や近年の調査で判明した城下町としての神岡の町の解説も行いたいと考えています。2階は現状の考古遺物の展示をより分かりやすく整理し、江馬氏下館や神岡の縄文時代の遺跡から出土した土器を中心として、より優品を展示するとともに、適切な解説を加えて、神岡の歴史を遺物という物から考えることができるようにしたいと考えております。

このように、歴史が好きな方が楽しめる展示内容としつつも、たまたま立ち寄った観光客の方にも楽しめるように、映像による解説も行います。また、コロナ禍以後に予想される訪日外国人旅行者の来館者数の復調に対応するため、解説や映像は英訳併記を行う予定です。

最後に4点目の展望台としての活用についてお答えします。神岡城は河岸段丘上にあることから、議員ご指摘のとおり、3階からは素晴らしい展望が広がります。そのため、観光でお越しの方が、神岡のまちを一望できる景色を楽しむとともに、神岡の名所に案内誘導できるようにしたいと考えています。具体的には、現在見える景色の中で、川や街道、山城、寺社仏閣等の歴史的

な場所のほか、観光スポットの表示や簡単な解説をパネル展示等で行う予定です。また、来館者が安全に景色を楽しめるよう、柵の修繕も行うこととしております。

次に、2つ目のご質問、リニューアル後の活用についてお答えします。国史跡、江馬氏城館跡との連携による活用につきましては、1つ目のご質問でもお答えしたとおり、神岡城の展示内容を江馬氏城館跡の概要や、調査成果、国指定名勝庭園としての価値についても、映像を交えて紹介することとしており、同主席のガイダンス機能を持った施設としても位置づけることができると考えております。

さらに、令和5年度には神岡町に所在する傘松城跡が国史跡に追加指定となるよう現在準備を進めているところであり、傘松城跡や高原諏訪城をはじめとした江馬氏の山城の位置や概要、江馬氏の城づくりの特徴を解説する予定です。このように、リニューアル後の神岡城は、江馬館や山城探訪に深みを持たせることができると考えており、大いに相互の連携活用ができる施設になるものと期待しています。

なお、先の3月議会で、料金改定をお認めいただき、既に今年度より高原郷土館、江馬氏城館跡公園の共通料金を設定しているところです。今後も周辺施設との連携に継続的に取り組んでいきたいと考えています。

〔教育委員会事務局長 野村賢一 着席〕

○13番（葛谷寛徳）

大変期待ができる内容になっていると思います。1点、伺いますが、このリニューアルが予定されておりますこの鉱山資料館や、江馬氏城館跡などと連携してより質の高い、中身の濃い歴史や背景を伝えることになるわけですから、より一層関係を持っていく仕組みが必要であるかなと思います。そのためにも、前回リニューアルされた資料館のときも言いましたけども、案内人や説明する人が必要になってくると思いますけれども、この点、今後どのように考えていらっしゃいますか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育委員会事務局長（野村賢一）

案内人についてですけども、基本的に、常時人が張り付いてなくてもいいように、動画とかで分かりやすい解説をする展示内容とするよう、工夫していきたいと考えております。

また、高原郷土館ですけども、街歩きガイドの案内コースに入っておりますので、地域全体で連携を強化したいと考えております。そしてカミオカラボや、リニューアルを予定している鉱山資料館と一体的な案内誘導を関係者とともに模索したいと思います。

公園はご存知のとおり、受け付けからちょっと遠く、公園自体が広うございますので、管理作業も労力がかかっております。したがって現在の管理人では、ちょっと案内までできかねますので、今、申し上げましたような方法で対応したいと考えております。

○13番（葛谷寛徳）

ぜひ、この街歩きの案内人さんや、あの一帯、いろいろラボもありますし、特に城跡とこの神岡城、資料館、こういうことの連携が必要だと思いますので、また、もし団体であるとか、グループであるというような方がいらっしゃったら、説明するなどそういうような対応をできるよう

にさせていただきたいなと思います。

それから、現在、ある程度の城の歴史を踏まえて神岡城もあまり文化財的価値はないかもしれませんが、それなりの城を東町城に基づいて造ったわけですが、この中に展示物は今現在ありますが、神岡にゆかりのないものも展示されているとはいえ、それでも立派なものも数点あります。この現在の展示物は今後どのようにされるのか伺います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育委員会事務局長（野村賢一）

展示してあるものでございますけども、寄贈していただいたものが多く、経路も不明なものがたくさんあります。それで一旦、どこか別のところに保管をしまして、もし所有者が分かって、返却のご希望があれば返却したいというふうに考えております。

○13番（葛谷寛徳）

保管されて、入札等で売るわけにはいかないということですね。幾ら価値があまりなくても、一応保管しておくということですね。聞くところによりますと、この鉱山資料館のリニューアルのコンセプトですね、この間の報道にもありましたように、この鉱山の町、神岡の歴史と文化を、後世につなぐとされているようでございますが、ぜひこの神岡城の展示装飾がこのリニューアルによって江馬氏城館跡の歴史と深く繋がっていることや、飛騨市の山城との関係なども今後いろいろと山城の整備をされていると思いますが、地域の観光振興、こういうことに繋がっていくと思いますので、こういうこのリニューアルに期待をいたしまして次の質問に移りたいと思います。

2点目ですね。新型コロナウイルス後の復活に向けた取り組みについて伺います。新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、国内のインバウンド需要は低迷しております。市内の観光業や旅行業、また、飲食、宿泊業とそれに関連するタクシー業や酒小売りなどはまだ需要の戻りが鈍い状況であります。

県は、感染事例が多く見受けられる場面としては、飲酒を伴う懇親会等や多人数や長時間の飲食、マスクなしの会話などと注意喚起をされているところですが、飛騨市は早くから無料検査実施施設として、まちなか簡易検査センターを設置して対応しており、聞くところによりますと6月12日現在で7,533件と大変多くの方が利用されていると聞いておりますし、また古川町と神岡町の薬局で、抗原検査キットを500円で購入できるように支援しておられますが、これを聞きますと5月31日現在で1,568人が利用して、4,441個が購入され、大変好評を得ているということでございます。

ほかにも医療関係における無症状PCR検査や、地域活動団体への検査キット配布など、検査体制の拡充を図られているところでございます。

市長も制度にこだわって時間と手間のかかるPCR検査を重視するよりも、体に異変を感じたときや不安があるときは必ず、まず抗原検査キットで自己チェックしたほうが予防効果が大きいのではないかとと言われていらっしゃると思いますが、国は大型連休後も新規感染者数の減少傾向が続いているために、6月から入国者数を上限1万人から2万人に引き上げるということを予定しておりますし、また、外国人観光客の受け入れ再開に向けて、全国で小規模ツアーの実証実験が実施され、6月10日から外国人観光客の受け入れを約2年ぶりに再開をされました。屋外で会話がな

ければマスク着用の不要など、コロナ前の日常を取り戻そうとしております。飛騨市としても、コロナ禍の2年間で停滞してしまったムードを吹き飛ばすべく、市が主催するイベントは極力、積極的に前向きに実施すべきときではないでしょうか。

古川祭も何回も検討を重ねられて、縮小されたものの見事にコロナ禍を乗り越え、行列や屋台の引き揃えを実施されました。議員も2年間、成人式や出初め式、学校の卒業式や運動会など、あらゆる行事に出席することはできませんでした。市としても、コミュニティ活動を維持するために、イベントを行う行政区や祭り関係団体などには、事前に申し込みをしてもらった上で、抗原検査キットを無料で配布するなどして、地域の絆、繋がりを維持されてきました。

コロナにかかっても、重症化予防のために、60歳以上の方や基礎疾患を有する方に4回目ワクチン接種の手続きも始まっております。

市として、この機会に感染対策を万全にして、イベントや交流、懇親会等を率先して実施していく方向を示したらどうでしょうか。まだ、慎重に対応すべき点はありますけれども、国が感染対象の二類相当に適用している以上、いろいろな制約が現実にあると思います。次の2点について、市の対応、考え方を伺います。

1つ、新型コロナウイルスとともに生きる生活、いわゆる新たな日常を早く取り戻すためにも、市のイベントや交流事業、懇親会など、今後どのような基本的な考え方で進められていくか、伺います。

もう1点、民間団体や行政区など、イベントや総会、交流事業など新たな日常を取り戻すためにも、市として対応を考えていらっしゃるか伺いたいと思います。民間団体もいろいろと市の対応に遠慮しているところが多分に見受けられますので、その辺をお伺いしたいなと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔市長 都竹淳也 登壇〕

△市長（都竹淳也）

コロナ後のイベント交流事業、民間団体のイベント、総会等に対する市の姿勢ということで、2点お尋ねをいただきました。一括してお答えを申し上げたいと思います。

まず、こうした今後の方向性を定めていく上では、現在の新型コロナウイルス感染症の状況というものをどういうふうに認識するかというところを押さえることが大事でございまして、まず、今、私の基本的な認識を申し上げたいと思います。

オミクロン株による新規感染者、全国的に減少傾向にあります。ただ第5波に比べますと依然高止まりしているということは変わらない。ただ、その中にあっても入院リスク、重症化リスクが低いことがこのオミクロン株の特徴であるわけです。このために3月の段階で政府の方針が大きく転換をいたしまして、今後強力な変異株が出現して来ない限り、感染拡大が起きたとしても飲食店や公共施設における時短要請や休業要請、国民に対する行動制限が行われないこととなっているということでございます。

また、最近の政府の専門家会議、アドバイザリーボードなんかの議論を見ておきますと、マスク着用を始め、生活の負担感を減らしつつどうやってコロナと共存していくかといった観点で議論が進んでいるというふうに承知をいたしております。

さらに、今後、どうなっていくかということなのですが、飲み薬の使用が恐らく本格的に認められてくるであろう。そうすると軽症の段階から治療ができるようになる可能性が出てくるということでございますし、ワクチンの国内生産も進むようになりますと、そのワクチンの確保も容易になってくるということがございます。それからワクチンそのものも今のワクチンというのは、あまり知られていませんが、武漢型に対応したものでありまして、オミクロン型に対応したワクチンというのは、今、出ていないわけでありまして、それで、恐らくオミクロン株対応のワクチンというものも開発が進んでくるんだらうというふうに考えますと、こうした新型コロナウイルス感染症に対していくための医療資源というものは、さらに充実確保されてくるというのが今後の流れであろうというふうに思います。

一方で、足元の状況を見ますと市内の最近の感染事例、これは本当に数が減ってきておりまして、先ほども今日の数字が出てきておりまして今日は0件で0人ではありますが、そして、非常に少ないわけでありまして、濃厚接触者が経過観察期間を過ぎてから発症するという、今までなかった発症パターンというのも出てきておりまして、そうするとやはり、何がどうなってくるのかということとは油断できない、常に注視していかなければいけないという状況であることは変わらないわけでありまして。

それから、オミクロン株の重症化リスクの低さというのは、言われているのですが完全に実証されきっているわけではないということを考えますと、やはり警戒を怠ってはいけないということになります。

それから、今後、3回目のワクチン効果がだんだん減衰をしてまいりますし、夏あたりに人が大きく動いたりする時期を迎えますと、また、春のこの連休明けのような一定の感染の拡大というのは見られる可能性もあるということでございます。そうすると、今後少なくとも秋から冬頃までは同様の基本的な感染対策はしっかり行っていかなければいけない。その上で、社会経済活動をまわしていくということを考えていかなければいけないということでございます。

市としては、これまでと同様の基本的な方針ですが、こうした基本的な感染対策を行いつつ、各種の行事、イベント、そうしたものは基本的に開催をしていくということを、私としては常に申し上げておりまして、毎週行っております対策本部の中でもそのような指示をいたしております。

また、来賓を減らしたりとかそういった行事なんかもあるわけですが、感染リスクのことを考えますと、これは別に減らす必要はありませんし、フルパッケージで行っても差し支えがないのではないかというようなことを、私自身は申し上げているところでございます。その際に、例えば、今、旅行促進の施策である県民割で見られておりますように、ワクチンの3回目接種の確認、あるいは検査での陰性確認を軸とする対策がとられているわけでございます。

ただ特に、こうした飲食を伴ったりするものなんかにはこうした対策、確認の仕方というのは有効ではないかというふうに思われるわけですが、ただ、今後のことを考えますと、ワクチンを3回接種していたとしても、感染予防効果は次第に減衰していくということがございますし、高齢者等を対象とした4回目のワクチン接種が始まるわけですが、これにつきましても今回ご答弁を申し上げましたが、その目的は感染予防ではなく重症化予防ということで明示をされているということを考えますと、ワクチンを接種していることの有無、そのワクチン接種がどういう状況

にあるかということ、感染の有無を判断していくということは難しいだろうと考えます。

そうすると、現場においてその場で感染しているかどうかを確認するという検査が今まで以上に重要になってくるのではないかと考えております。市がこれまで検査体制の推進をコロナ対策の重要な柱として位置付けて、生活の様々な場面で気軽に検査ができる体制づくりに取り組んできたのも、あるいは今、市民の皆様にも頻回な検査を呼びかけているのも、こうした考え方によるものであるわけです。

したがって、今後の市内での様々なイベントや行事、懇親会等の開催に際しましても、基本的な感染対策に加えまして、事前の検査を上手に活用していただきたいというふうに考えております。まちなか簡易検査センターに加えまして、今般も薬局での検査キットを購入できる支援策の拡充ということを行いましたし、事業所におけるキット備蓄の支援の拡充ということも行っております。特に検査キットの購入、先ほど議員のほうからも数字をご紹介いただきましたが、直近の昨日の対策本部での報告ですと累計でも5,000個を超えておりますので、大変多くご利用いただいております。

こうした手軽な検査を大いにご活用いただくとともに、特に飲食を伴う行事については、マスク会食と換気ですね、これはマスク会食だけよく言われるんですが、換気がとても大事ですので、換気を徹底していただくことで、十分に開催していただけるものというふうに考えているところでございます。なお、こうした制約の緩和につきましては、政府における方針が今後変わってくる可能性も当然ありますので、引き続き、エビデンスに基づいた新たな日常生活のスタイルがどう示されているのかを注視して、随時、市民の皆様にお伝えしていきたいと考えているところでございます。以上です。

〔市長 都竹淳也 着席〕

○13番（葛谷寛徳）

今の答弁の中でもありましたようにワクチンは重症化予防であるというようなことですから、今後期待できるのが、飲み薬であるということだと思います。今ほどもあったように、県内で飛騨市しか実行していないこの無料のまちなか簡易検査センターであるとか500円で購入できる抗原検査を、こういうことを利用することによって陽性者もすぐ発見できる、いわゆるクラスターを阻止できるという、こういうことの一番大事なところが抑えられて対応されているのでこれを大いに利用していく必要があるのではないかなと思います。

こういうことと飲み薬ができてくるとかなり緩和され、イベントが続けられ、行事がやっつけられるのではないかなというふうに思いますし、昨日も、岸田首相が都道府県が行う旅行割引ですか、これを対象を全国に7月から広げたいという、国もだんだん緩和に動いているので、やっぱりこうやって無料の検査体制をされている以上、やっぱり市も、ある程度積極的に事業なりイベントなり、こういうものを前向きに開催していただきたいなと思います。

私の地元でも昨日、太子踊りを絶対やるんだということでやることになりました。やっぱり民間のいろいろな団体はなかなか躊躇しておりまして、何かのきっかけがないと、なかなかこう回っていかないというようなことがあるので、積極的にしっかりとした対応をしてやっていくんだということさえあれば、かなりのことができていくのではないかなと思っています。外国人観光客の受け入れというのは、飛騨市として積極的にこうやるんだということを考えられているの

かどうか、そこをお聞きしたい。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

今はまだ団体旅行が解禁されたばかりですが、当然、そのルートに入ってくれば、それはもう積極的に受け入れをしていくということになりますし、もう水際対策といいますか、海外から入ってくるところだけを止めればいいということでは、今はないですから、そういったことも考えても、もうインバウンドも動くようになってきていますし、そうしたお声がけ、機会等があれば、積極的に受け入れをしていくことにしたい。

また、そのためにこれも飛騨市独自の取り組みではありますが、宿泊施設に検査場を設けてもらうような支援をするということで、既に、今、蕪水亭さんとホテル季古李のほうで、検査ができる体制にもなっている。さらに、その拡大も今、支援をしている。そうすれば、インバウンドの方が来られたときに検査をしてもらって、その場で再度検査をしてもらって、陽性ではないことを確認する。そうすることによって、安心してお泊まりいただけるということもあると思いますので、そうしたことを武器にしながら、呼びかけを広げていきたいということでございます。

○13番（葛谷寛徳）

宿泊施設のほうでも、今、言われたように2軒手を挙げて、積極的に対応されているということで、いろいろ宿泊業の方もそういう制度を使って進めていただければと思います。もうすぐ夏が来ますし、夏休みも始まりますので、夏の行事、夏祭りであるとか花火であるとか、大いに楽しめるイベントも続きます。

こうやって1日も早いコロナ前の日常生活を取り戻したいと思いますので、大変でしょうけれども、今後もいろいろと対応に努力されながら、積極的に行事であるとかイベントを進めていただきたいと思います。以上で、私の質問を終わります。

〔13番 葛谷寛徳 着席〕